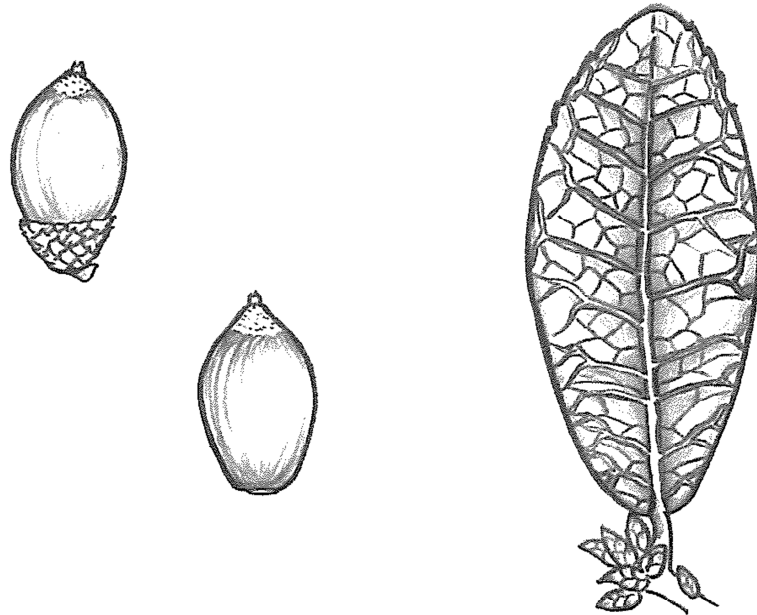


9 【ウバメガシ】 姥目櫨

別名：ウマメガシ（馬目櫨）



常緑 2年成り

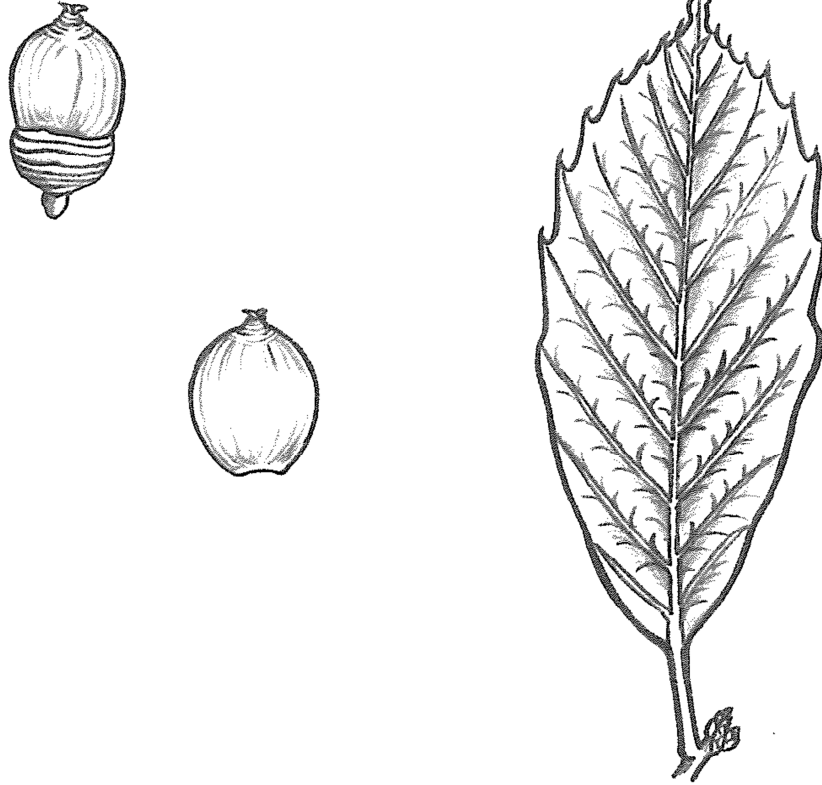
カシの仲間で、赤茶色の新芽が若葉のみずみずしい緑とはずいぶんちがって、うば（おばあさん）の目をを想像させることから、うばのめ（芽）を持つカシとなり、ウバメガシと名付けられた。同じ木に実ったどんぐりでも、細長いものから丸いもの、ねじれたり、ふくれたりなどさまざまである。あざやかな緑をしていても十分に熟していることもある。木は備長炭に使われる。

どんぐり：殻斗は薄（うす）っぺらで浅い。へそが小さい。

葉：長さ3～6 cm。幅2から3 cm。裏側にやや反（そ）る。

木：黒褐色。老木ではたてに浅くさけ、大きく成長するとはがれる。

10 【アラカシ】粗櫨 別名：ナラバガシ（檜葉櫨）



常緑 1年成り

カシの仲間で、幅が広く縁のぎざぎざ（鋸歯）が大きい葉のようすが樹木全体をあらく（粗く）感じさせることが名前の由来。関西地方でかなり多い。ドングリのなる時期が木によってかなり違っている。10月頃から2月頃に熟す。

ドングリ：殻斗はシラカシそっくりで輪を積み重ねたようなおわん型。実に毛がない。

葉：葉のぎざぎざ（鋸歯）が上半分にあり、大きい。

シラカシに似ているが裏側に細かい毛があり灰白色。

木：暗灰色。浅いくぼみがある。大きな割れ目はできない。